

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温上昇の影響で、1人当たりの飲料の販売数量が増加している。また、来店頻度も上がっている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・夏休みの家族の動向や、イベントに伴う人流の動きが活発になっていることが要因と考えられるが、4～5月と比べて稼働率の動きが顕著に良くなっている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーの新車生産が順調に進んでいる。一部の車種で受注停止が続いているが、3か月前と比べ改善している。
	○	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・酷暑により来客数などが落ち込むかと懸念していたが、そのようなことはなかった。物価高による商品単価の高騰があるものの、それを考慮しても購入単価が例年と比べ高くなっている。特に、掛寝具については、例年手頃なタオルケットの需要が高かったが、今年は酷暑のため一晩中エアコンをつける必要が生じ、タオルケットでは冷えてしまうため、単価の高い布団が好調である。
	○	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・通常夏はコーヒーの需要が少なくなるが、リキッドが増えてくる。2～3か月前と比較すると、客の来店は増加傾向であるため、状況は良くなっている。
	○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	お客様の様子	・4月からゴールデンウィークにかけて当館ではシネコン不振の影響で全館不調に陥っていたが、その時期と比較すると復調の兆しがみえてきている。一般消費者の動向はやや回復の傾向がみられ、テナントについてもコロナ禍後の回復状況となっている。実際に売上動向としては、物販店舗に波はあるものの一定水準を維持しており、新規テナント出店の計画もあることから、テナントの意欲も戻っている。一方、当館や周辺ショッピングセンターとの情報交換の中では、まだアパレル関係の明るい話題が少ない。
	○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	販売量の動き	・6月は国内客の動きがやや増加している。
	○	旅行代理店（統括者）	お客様の様子	・企業の業績向上に伴い、インセンティブ旅行や社員旅行を実施する企業の増加傾向がみられる。個人需要も給与アップや夏のボーナスが追い風になり新型コロナウイルス感染症の発生前を上回っている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらずインバウンド効果は好調で、特に最近大型クルーズ船の寄港が増加しており、繁華街の商業施設を中心に経済効果が出ている。
	○	タクシー（統括者）	来客数の動き	・通勤通学でなく観光客の利用が多くなっている。円安の影響もありインバウンドの移動手段として高額なタクシーを選択しており、旅行会社からタクシーの依頼や契約の話が増加している。
	○	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・インバウンドが増加している。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・調査対象店のマイカー利用客が大幅に増加している。
	○	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・平均株価が上がり、円安の状況であるため、経済活動が投資中心となっている。投資活動が盛んに行われており、景気は良いといえるが、実際の生活レベルまで経済が回っているかと考えると、所得の差は激しいため、景気は良くも悪くも両極端となっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・異常な暑さで外出を控える人が多く、買物にかかる時間も減少している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・大雨や猛暑で天候が不順であったため、出足は4～5月と比較すると悪くなっている。
□	一般小売店 [鮮魚]（店員）	お客様の様子	・今年はウナギの価格が高く、土用の丑の日の売上は落ちると予想していたが、予想より良い状況で安心している。客も年に1度、ぜいたくをする余裕がある。	

<input type="checkbox"/>	一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・引き続き飲食店向けの販売が好調である。高単価・高品質の商品ほど良く売れている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前との販売量の比較では変化がない。しかし、国内客の売上が減少し、インバウンドの売上が増加しているため、購買客の割合が変化している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・食料品や飲食にはそれほど落ち込みはないが、お中元ギフトは年々減少傾向である。また、物価高や猛暑の影響もあり、婦人・紳士衣料の売上が改善しない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・国内外の観光客の回復で街はにぎわっている。全店催事やクレジット催事開催、また、祭りやお中元商戦が本格化しているが、悪天候と下旬の猛暑で平日・土日祝共に来客数は減少傾向で、ギフトセンターや商品の持ち帰りも減少している。一方、サテライトでは健闘しており、商品単価や客単価は上昇し、地元の外出を控えている客からの電話受注の依頼が増えている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・異常なほど猛暑日が連続しており、外出そのものを控える客が多い。また、定額減税が始まっているが、その恩恵を話題にする客もいない。物価を始め、あらゆるサービスの価格が上がっていることに嘆く客が多い。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・化粧品等は引き続き好調であるが、衣料品関係だけでなく食品も前年を割り込む状況となっており、客は購入する先をはっきりと決めている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上指標の一部である買上点数の状況が前年より下降傾向である。消費者の購買意欲は買上点数が示すとおりで、生活防衛意識が高くなっていると判断している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・物価高騰の影響で、全体の販売数量も客の購入点数も前年を下回る状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・急激な暑さで夏物商材の売上が好調である。しかし、来客数は戻っているが、依然として買上点数の減少を単価の上昇でしのいでいる状態である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・猛暑が続き夏物商材の販売は好調である。しかし、価格には敏感で低価格商品の動きが強い傾向となっており、結果として売上は横ばいである。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・買上点数が僅かに前年を下回っており、客は商品の値上げが続くため慎重な購入になっている。例年と比べこの時期としては過ごしやすい気温のため、飲料やアイスの売上が伸びていないことも影響している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	単価の動き	・物価の上昇で売上は増加しているが、買上点数は減少している。全体的な売上は前年を上回っているが、来客数は前年を下回っている。今後、景気の変化によっては、前年割れを起こすのではないかと危惧している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・インバウンド需要がほぼないため、特に変化がない。また、夏のボーナス需要の影響も例年と大きく変わらず、定額減税の影響もほとんどない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	販売量の動き	・酷暑のため、売上が前年と比べて伸びていない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・梅雨が明け、来客数は若干伸びているが、チラシに付いている無料やプラス1品のクーポン券を持参する客が増加している。そのため、単価が低くなり、売上が伸び悩んでいる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・景気は悪い状態が続いている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・7月は、4月と比較すると雨や猛暑による異常気象のため、非常に影響を受けている。そのため、客の回遊性が減少し、値上がりもあり、経営が難しい月である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	お客様の様子	・猛暑が続いているが、家電の購入を迷う客が多く、まだまだ財布のひもは固い状況である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	販売量の動き	・多少なりとも賃上げによるメリットがあった人は良いが、物価上昇率が高いため、多くはそのメリットを享受していない。

□	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・車の購入を検討する人が減少している。
□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・大手自動車メーカーの認証不正問題に起因する生産停止や客からの不安など販売現場として安定感がない。
□	乗用車販売店 (役員)	来客数の動き	・大手自動車メーカーの認証不正問題の影響が長引き、少なからず来客数にも影響が出ている。
□	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・今月の都市部でのキャンペーンは、相変わらず厳しい状況であるが、店舗での販売は旺盛に売出しをしたため前年並みである。
□	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・団体客は徐々に入っているが、全体的な客の動向を見るとまだまだ客足は鈍い状況である。
□	観光型ホテル (管理)	来客数の動き	・販売単価は若干上がっているものの、来客数は減少している。
□	旅行代理店(職員)	販売量の動き	・海外旅行の購入は伸びているが、国内旅行の購入は減少しているため、3か月前と比較して旅行購入額がほぼ同じであった。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・今年の日中が余りにも暑いため、短い距離の利用が増えているが、県外からの客は余り増えていない。
□	通信会社(役員)	お客様の様子	・前月と変わらず積極的な購買意欲がみられない。
□	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・光回線の新規販売件数が低迷している。
□	テーマパーク職員	来客数の動き	・来客数は高い水準を維持しているものの、3か月前と比較して伸びているわけではない。
□	ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・例年より暑い予報があるものの、予約は順調に推移している。天候が大きく崩れなければ前年と同程度の入場者数は見込めそうである。
□	競馬場(職員)	販売量の動き	・販売量の動きは特に変わらず、景気の変化はみられない。
□	美容室(店長)	お客様の様子	・物価が上がり、生活しにくい状況にある。
□	その他サービスの動向を把握できる者(所長)	お客様の様子	・3か月前との比較では、売上や受注量の変化がない状況である。
□	学習塾(従業員)	来客数の動き	・3か月前と比べ、売上の動きは変わっていない。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街では再開発が行われており、仮店舗で商売をしている。青空市場であるため、空調設備が全くなく、客に迷惑を掛けている状態であるため、来客数がなかなか増加しない。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・今年の夏の暑さと物価高騰によって節約志向となり、商店街への来街者数が減少しており、今まで以上に買い控えが目立っている。
▲	商店街(代表者)	販売量の動き	・気温が高くなったことで外出が少なくなっているため、人出が悪く販売量が減少している。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・特に土日の外出が極端に減少しているため、商店街への来客数が減少している。加えて、生活必需品以外は消費に慎重である。
▲	百貨店(企画担当)	販売量の動き	・夏のクリアランスセールが始まったものの、まとめ買いが余りみられず、必要なときに必要な物だけ購入するという印象が強い。
▲	百貨店(企画担当)	お客様の様子	・連日猛暑が続き、中心客である高齢者の来店が減少しており、衣料品などの動きが鈍い。食品など日常購入する商品についても、精肉など高価格帯の販売量が減少している。
▲	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・天候不良による来客数の減少に加え、お中元等の季節商材の低迷が顕著である。
▲	スーパー(企画担当)	お客様の様子	・食品は堅調に推移し、特に土用の丑の日が好調であった。一方でお中元ギフトや衣料品、住宅関連商材は前年を下回り、節約志向の強さがうかがえる。
▲	衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・猛暑のため外出を控える人が多く、来客数が減少している。
▲	旅行代理店(統括者)	来客数の動き	・来客数が減少している。

	▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると景気が全く回復していない。美容業界の悪い例だが、夏になると暑さの影響で客の動きが悪くなるため、業界全体の動きが低調になる。店の商品の動きも非常に悪くなっており、売上は減少傾向にある。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・4月の介護報酬改定における訪問介護の基本報酬マイナス改定や、新型コロナウイルス感染症の第11波の感染拡大に伴う利用者の入院やサービスキャンセルにより、売上が減少している。
	▲	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料や製品の価格上昇の影響で生活必需品の値上げが続いているが、仕事の対価は上がらない。
	▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・建築資材の価格が上昇している。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・猛暑の影響で各種イベントや展示場来場者数が減少している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・豪雨や猛暑の影響で、日中の来客数が激減している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・この猛暑で人が全く歩いていない状況である。
	×	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・全国的な暑さと大雨の影響で、根物野菜である人参やだいこんなどが東北産や北海道産に偏っており、かなり高い相場で販売している。マンゴーは全国的に不作のため、当地産の完熟マンゴーは前年より1箱あたり約1000円高く、東北産の桃も量が取れずに、前年より1箱あたり1000円ほど高い状況で販売している。来客数が少ない上に相場が高いため、売上はかなり厳しい状況である。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・日柄の良い日は開店祝いや周年祝い等の花が売れるが、酷暑では生花店での通常使用の切り花の売上は厳しい状態である。
	×	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・想定外の猛暑が続いており、外出する人が少なく来客数も少ないため、前年と比較すると非常に売上が落ちている。閉店する店も増加している。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・3か月前と比較し、明らかに販売状況が悪化している。来店頻度や買上点数が、衣食住を問わず前年を下回っており、消費を抑制している。一般の消費者は、単価の上昇に付いていけず、景況感悪化している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比で3割減となっている。
	×	観光型ホテル（専務）	お客様の様子	・夏休みに入ったが、地域全体も含めて客足が少なくなっている。新型コロナウイルスの感染者が当地区でも増加しているのが原因だと考えられる。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・各方面で引き合いの情報は増加している。
	○	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・未着工の工事が始まり、現在人手不足は否めない。材料等も順調に入荷されており、計画どおりであるが、暑さ対策をしなければ今後の工事に影響が出るため、社員・作業員の体調管理に万全の態勢で臨まなければいけない。
	○	輸送業（従業員）	取引先の様子	・取引先からの受注が増加している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年7月は暑くなり、ビールの消費に合わせた居酒屋メニューの商品を送っているが、今年も順調な動きである。量販店向けも今年の梅雨の中盤は雨が少なく、商品の流れが良い状況である。工場生産も原料となる鶏も順調に入荷し、加工場でも順調な生産を上げている。7月は全体的に良好な結果が出ると期待している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は若干落ちている程度であるが、受注関係では前年と比較すると品質が随分と変わっている。当店の商品よりも他の商品の方が受注が多くなっており、価格が下がっているのが現状である。

□	金属製品製造業 (事業統括)	受注量や販売量 の動き	・前月と比べ受注残は増加傾向であるが、全くの上向きではない。
□	一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・前年度に受注した再生可能エネルギー関連での設備製作事業が進行中ではあるが、その他の分野の受注はまだ手を付けていない。
□	輸送業(従業員)	受注量や販売量 の動き	・前月同様、輸出に関して船便やコンテナの予約が取りにくい状況が続いている。輸入についても影響が出ており、我が国に到着するコンテナが減少傾向である。国内販売では売れる商品と売れない商品に分かれており、顧客層と付加価値が明確であれば高価格でも販売は伸びている状況である。住宅に関しては資材価格が高騰していることもあり、売地があっても契約にはつながらず、販売不振である。
□	輸送業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・物量は予測とほぼ変わらない動きである。一部、お中元やお歳暮等の商品やアパレルでやや物量が減少しているが、食品関係は堅調である。
□	通信業(統括 者)	受注量や販売量 の動き	・顧客との取引状況を見ると、前年度と比較して売上が増加傾向である商材は一部であり、全体を押し上げるほどの受注量は見受けられない。
□	金融業(従業 員)	取引先の様子	・住宅や家電の販売は弱含みながら、雇用や所得環境が緩やかに改善傾向にある。百貨店やスーパーマーケットの売上が比較的底堅く、飲食店のほか、旅館やホテル等旅行関連業種の売上也増加している。
□	金融業(調査担 当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、5類感染症へ移行する前のような緊張感は漂っておらず、祭り等のイベントは盛大に開催されている。夏季シーズンの観光客においては、インバウンドの増加が顕著である。また、猛暑でエアコンや扇風機、日焼け止め、日傘等の動きが活発である。しかし、多業種で人材不足が深刻化している。
□	金融業(調査担 当)	取引先の様子	・インバウンド需要は堅調となっており、飲食業や小売業では活況ではあるが、製造業や運送業では円安の進行による原材料価格の高騰や燃料価格上昇の負担が大きくなっている。
□	金融業(営業担 当)	取引先の様子	・中小企業は全般的に人材不足と資材、材料、人件費の高騰を吸収できるほど売上、利益を計上できる体制には追い付いておらず、景気好転の状況は見受けられない。
□	金融業(営業)	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症が再度流行している。以前のような影響力はないが、梅雨の大雨もあり、人の流れや消費行動に少し影響が出ている。賃上げが広い範囲で行われており、景気は悪くない状況である。
□	不動産業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・最近の販売価格に変動がなく、他社の動向等にも変動がみられない。
□	新聞社[広告] (担当者)	受注価格や販売 価格の動き	・新聞広告の申込みや問合せ案件が少ないため、景気はやや悪い。
□	広告代理店(従 業員)	受注量や販売量 の動き	・売上については前月比で微増となっているが、前年比では減少している。広告主からの新聞折込については以前のような客から反響が減少しており、3か月前との比較では変化は余りなく横ばいである。
□	経営コンサル タント(代表取締 役)	取引先の様子	・取引先に業況を確認したところ、大きな変化はないという回答が多い。
□	経営コンサル タント(社員)	競争相手の様子	・7月の会合の準備で連絡を取っているが、目立った動きは見られない。
□	経営コンサル タント(社員)	受注量や販売量 の動き	・清酒・焼酎の売上は、新型コロナウイルス感染症発生前より20%減少している。しかし、インバウンドはウイスキーや缶チューハイを購入しており、海外への輸出も増加している。
□	経営コンサル タント(代表取締 役)	取引先の様子	・取引先の業種が様々であるため一概にはいえない。報道によると大企業の景気は良さそうであるが、中小企業では依然として厳しい状況にある。
▲	繊維工業(営業 担当)	取引先の様子	・海外生産や在庫調整などで生産量がかなり減っている。

	▲	その他サービス業 [コンサルタント] (代表取締役)	競争相手の様子	・市町村から福祉やまちづくりの調査、計画策定業務を入札やプロポーザルで請け負っているが、7月になるとプロポーザルは減少し、入札の割合が高くなっている。入札件数は、前年度は比較的多かったが今年度は減少しており、価格競争が激しくなっている。このため、受注の機会が減少していることから景気がやや悪くなっている。
	×	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・7～8月は受注が大幅に減少している。
	×	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	受注価格や販売価格の動き	・様々な相場が下落し、それに伴って顧客の生産量も落ちている。余り良くない状況である。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・今月は派遣の受注数が前年比110%と増加している。利用企業からの問合せなどが多くなっており、社員の補充などを派遣で補う体制が増加している。
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・全国スポーツ大会の関連案件が発生していることに加えて、新規プロモーション案件が増加している。
	○	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・中心市街地や郊外の大型商業施設などへの人出が多くなっている。インバウンドを含め、県外からも増加している。
	○	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・2025年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率が上昇したことに伴い、求人数は前年と比較すると増加しており、2024年7月1日の内定率は88.0%と前年比で4.8ポイント上昇している。就職活動が早期化するなか、深刻な人手不足を背景に、学生にとっては有利な状況である。一方で、採用活動を行う企業や団体にとっては、苦戦している企業もあり、夏以降も継続して行う企業が増えている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3か月前と比べると、今月の注文数は1割程度減少しており、成約件数に関しても同程度である。新規企業からよりも、既存や過去取引のあった企業からの注文の方が多くなっている。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・街には人が多いが、ほとんどがアジア系の外国人である。インバウンド景気がなければ、地元企業の経済はどうなるのか危惧している。また、求人も積極的ではないと感じている。
	□	新聞社 [求人広告] (社員)	それ以外	・最低賃金が過去最高の増額幅となり、景気変動の要因の1つとして期待しているが、短期的に影響はない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求職者数は横ばいだが、新規求人数の減少が続いている。
	□	民間職業紹介機関 (職員)	それ以外	・大学では、この時期になっても例年以上に企業の訪問が非常に多く、学校の就職支援担当者へのアポイントが取りにくくなっている。その状況から、まだまだ求人数が多いことが分かる。
	□	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・中小企業を主として高い採用ニーズは続いているが、3か月前と変化はない。
	▲	新聞社 [求人広告] (担当者)	雇用形態の様子	・賃金の上昇が話題になるが、身の回りで転職や退職をする人が多い。賃金だけでなく雇用事情もあるが、人手不足で求人数は多いものの安定した雇用は進んでいない。
	×	—	—	—